

PHC凝固線溶セミナー

九州 2024

2024年10月26日(土) 14:00 ~ 18:00(予定)

リファレンス駅東ビル 3F

福岡市博多区博多駅東1丁目16-14
<https://re-rental.com/ekihigashi/access/>

お申し込みは下記URLまたは二次元コードより事前登録をお願い致します
<https://x.gd/LWlsb>

お申込み後、リマインドメールが届かない場合は、
申込画面内にあるお問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。



特別講演

みえる血栓、みえない血栓と血液検査

— 静脈血栓塞栓症とDICをどのように捉える

東京都済生会中央病院 臨床検査医学科 窓岩 清治 先生

教育講演

凝固波形解析の基礎と最新のトピックス

天理大学 医療学部 臨床検査学科 松本 智子 先生

特別講演

みえる血栓、みえない血栓と血液検査

— 静脈血栓塞栓症と DIC をどのように捉えるか —

東京都済生会中央病院 臨床検査医学科 窓岩 清治 先生

がん関連血栓症（CAT）のうち静脈血栓塞栓症（VTE）は、患者自身の要因とともにがん自体やがん治療などを危険因子として、血管内皮傷害を起点に血小板・血液凝固系が活性化されることで深部静脈や肺動脈に「みえる血栓」が形成される病態です。一方で播種性血管内凝固（DIC）は、がんを含む基礎疾患により同じく血小板・血液凝固系が活性化されますが、全身の微小血管に「みえない血栓」が形成される病態です。さらには「みえる血栓」と「みえない血栓」が同時に存在することもあります。血液検査に関わる臨床検査技師はチーム医療を担う一員として、検査の限界を理解しながらこれらの病態を把握し、正確な検査情報の提供と解釈を介して診療に寄与することが求められます。

本講演では、VTE と DIC を対比させながら血栓症診療に必要な凝固線溶検査とともに、最近のガイドラインについても概説します。

教育講演

凝固波形解析の基礎と最新のトピックス

天理大学 医療学部 臨床検査学科 松本 智子 先生

一般的な凝固スクリーニング検査のプロトロンビン時間（PT）や活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）は、フィブリノゲンがフィブリンになるまでの時間を測定します。今話題の凝固波形解析（CWA）は時間のみならず、フィブリン形成過程を反応曲線によってモニタリングし、かつ各種パラメータで定量的評価が可能です。APTTによるCWA（APTT-CWA）は、各種凝固異常症の鑑別に有用で、最近ではAI技術による研究が進んでいます。さらに、APTT-CWAは標準化を目指し今後、APTT-CWAは検査室での実用化を期待されています。また、CWAの試薬を工夫し、凝固反応からフィブリン溶解過程を観察する凝固線溶波形解析（CFWA）があり、他にも改変CWAは色々と報告されています。今回、質疑応答を交えながら凝固検査の基本からCWAの最新の話まで幅広く学習します。